袋井市都市計画審議会

会 議 録

開催日 令和7年8月26日(火)

場 所 袋井市役所 5階 第一委員会室

袋井市都市計画審議会会議録

- 1 開催日時 令和7年8月26日(火)
午前10時30分から午後12時05分まで
- 2 開催場所 袋井市役所 5階 第一委員会室
- 3 出席者 都市計画審議会委員(13名中11名)
佐野武次、立石泰広、内田正春、豊田浩子、倉田裕司、
松本美紀、鈴木美保子、安達美歩、榊原正彦、
河原崎信明(代理 交通課長 稲葉龍)、朝比奈馨

事務局(9名)

石田和也 都市建設部長、杉山和昭 都市建設部技監、
大庭尚文 都市計画課長、
都市計画課：伊東謙吾 専門官、
多田康幸 課長補佐兼まちづくり政策室長、
寺田和英 まちづくり政策室次長、山田豊 計画推進係長、
袴田蒼太 主任、新村友梨 副主任

※袋井市都市計画審議会条例第7条第2項に基づき、委員の半数以上が出席していることから、定足数を満たしています。

4 議事

(1) 審議事項

第1号議案

中遠広域都市計画道路 柳原神長線の変更について(市決定)

会議録

- 1 開会
- 2 市民憲章唱和
- 3 市長あいさつ
- 4 会長あいさつ
- 5 議事

(1) 審議事項

(会議録署名人に鈴木美保子委員を指名した。)

第1号報告

中遠広域都市計画道路 柳原神長線の変更について(市決定)

(概要)

(都)柳原神長線は、新幹線の南側に位置し、高南団地との間を東西に通る都市計画道路であり、袋井駅の東側に位置する(都)広岡浅羽線と、西側に位置する(都)西門柳原線(県道 袋井大須賀線)の2路線を繋ぎ、東西に補完する道路として位置付けられている。この路線の線形を従来より南側に変更することで、沿線エリアの一体的かつ魅力的な土地利用の実現を図り、また、これまで鋭角だった県道との接続部分を安全な交差点形状に改善する。さらに、高南団地へのアクセスを向上させることで、通常時だけでなく災害時にも役立つ道路としていくため、変更を行う。

○議長 これより議事に入ります。第1号議案「中遠広域都市計画道路柳原神長線の変更について」審議いたします。こちらにつきましては、袋井市決定のため付議となります。それでは、事務局から説明をお願いします。

○事務局

(第1号議案について説明)

○議長 ただいま、第1号議案について、事務局から説明がありました。御質問がございましたらお願いいたします。

○■■■委員 5ページの「ふくろいセントラルパーク構想」と3ページの「変更後の線形と幅員構成」を比較すると、5ページにはパーク周遊ロードとして緑の破線が引かれており、これがいわゆる歩道として計画されています。3ページで路線変更が行われていますが、この変更区間に設置される2.5メートルの歩道は、パーク周遊ロードと併用する形になるのでしょうか。それとも、周遊ロードは別の歩道とするのでしょうか。

○事務局 パーク周遊ロードは、セントラルパーク構想の一環として位置づけており、ノブレスパークや新たに整備する緑のにぎわいゾーン、快適居住ゾーン、遊水池公園ゾーンなど、新幹線の北側と南側を結び、一体となって歩いて楽しい空間を提供するロードを表現しています。今後は、詳細な計画を立てていきますので、その中で、こういった形が人々にとって歩きやすい空間や道路になるのか考えてまいります。

○■■■委員 この周遊道路については、まだまだ検討する余地があるというような考え方でよろしいでしょうか。近年のいろいろ補助事業等は事業費が大変だということでございますので、できればこの車道の歩道を使うなど、うまくプランニングできないのかなと感じます。近隣に類似した歩道があるにもかかわらず、周遊道路はできるものなのでしょうか。

○事務局 大きな事業をやっていく上では、事業費っていうのはすごく関係あると思っておりますので、イニシャルコストやランニングコスト等も検討しながら、道路や歩道の計画をしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長 ほかにいかがでしょうか。

○■■■委員 道路そのものの変更に伴う質問とそれに関連した内容について、まず2点ほどお伺いしたいと思います。一つ目の質問ですが、柳原神長線の始点の県道と交差部分ですが、従来は四差路でしたが、今回の変更により五差路になるようですが、それに伴い、交通の渋滞が発生しないか懸念されますが、その点についての予測はどのようにされているのでしょうか。

二つ目の質問ですが、南から袋井の中心部に向かう際、特に出勤時にいくつか渋滞する箇所があり心配しています。その点について、どのような予測がされているのでしょうか

それから三つ目の質問ですが、道路の冠水対策についてです。青木町では秋田川の氾濫により、住宅地の浸水や道路冠水が頻繁に発生しているため治水対策が重要です。特に柳原の排水機場における排水ポンプの能力アップが大きな対策となると思っておりますが、この供用開始の計画について、現在の進捗状況や計画に対する遅れの要因がないかどうか、教えていただければと思います。

最後に四つ目の質問ですが、この都市計画道路の変更に伴い、セントラルパーク構想の中で

緑のにぎわいゾーンが南北に分断されることとなります。この分断により、一体的な土地利用を図るメリットが減少するのではないかと心配しています。この点について、どのようにお考えなのかお聞かせいただければと思います。

○事務局 まず一つ目の質問の回答ですが、新幹線の側道は県道へ西側からと東側からアプローチすることができ、この道路は交通量も多く、高南の方々からのアプローチ道路になっています。新しい道路、元々ある道路、それから県道ということで、変則的な交差点になってしまうということで、警察と交差点の協議をする中で、新しく柳原神長線ができた際は、県道から側道へ車両が入れないように物理的な規制を掛けようということで、ポールを立てて、県道を北進南進する車が進入できないような形をとっていくことを考えおります。

次に二つ目の質問の回答ですが、南からの渋滞の関係ですが、JR のガード下やノブレスパークへアプローチする交差点などが、朝や夕方に渋滞が生じるということで、御意見を伺っています。現在、浅羽と袋井市街をつなぐメインの道路が県道袋井大須賀線になっていますが、東西に結ぶ道路でノブレスパークの北側を通って神長をつなぐ田端宝野線という都市計画道路をつくっているところです。東西の道路が一つできることによって、南側からのアプローチが二つとれるような形になってきますので、渋滞の解消につながるかなというふうに考えております。さらに、ふくろいセントラルパークの事業を推進しながら、今回変更となる柳原神長線もつくられることで、南北の主軸となる都市計画道路二本を東西につなぐ道路ができますので、これにより、交通量が分散されて渋滞の緩和につながるかと考えております。

三つ目の質問の回答で柳原雨水ポンプ場の供用開始のことになりますが、令和6年から整備工事が始まり、令和12年完成を目指して整備を進めているので、令和13年度から供用開始をしていきたいというふうに思っております。もう一つ治水対策として、遊水池になりますが、昨年度、地権者の皆様からの用地取得もできましたので、今年の秋ぐらいから池を掘っていく工事を進めていきます。遊水池の治水機能だけは、令和8年に供用開始できるように進めているような状況です。

最後に四つ目の質問の回答となりますが、柳原神長線の変更で緑のにぎわいゾーンの中を、一部を分断して通る理由としましては、一つは、秋田川の拡幅の改修計画があるので、秋田川から少し離れたところにしたのと、もう一つは、緑のにぎわいゾーンは市内外の人々に多数通っていただき、にぎわいを生み出す場をつくりたい思っておりますので、南にある高南団地などの静かな住宅街との緩衝帯としての意味も込めて、緑地を設けています。また緑のにぎわいゾーンと遊水池公園ゾーンとの一体性を持たしたくて、南にずらし、今回変更しております。

○議長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 今聞いた話で、JR 東海道新幹線の南のところを閉鎖するということでしたが、今もう生活道路と使っているわけですけども、それは全く通れなくしてしまうということですか。

○事務局 道路自体はそのまま生きていますので、車両はもちろん通れる状況です。ただ、東側から来て、高南団地のほうに入る道路がありますが、県道のところを封鎖してしまうと、東から来て、一度、南に下りてもらって、それから新しくできた柳原神長線に出てもらってから県道に出るといような計画で考えています。全く新幹線の南側の道路が使えなくなるということはありません。

○委員 そうすると今、東から西へ道が走ってますよね。2 車線ありますけど、西から東はいけないのですか。

○事務局 両方使えます。

○議長 それでは私からも一つ質問をさせていただきます。少し東のほうですけども、清水町あたりのところで、断面の中で団地と秋田川が接するところがありますよね。ここでは秋田川は道路の北側に入ってくるのでしょうか。

○事務局 ここは、高南の住宅側から 14 メートルの道路に大きくなりますが、水路自体も道路の中に恐らく入ってしまう形になると思うので、暗渠か開渠にするかなど、これから詳細設計の中で考えていく予定です。

○議長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 道路の幅を16mから14mへ変更したのは、予算が関係しているのでしょうか。

○事務局 都市計画道路を決めるに当たっては、道路構造令というものがございまして、将来交通量によって、道路の幅員が決まってきます。コストがこのほうが安くなるからというわけではございません。

○議長 今後、この都市計画審議会とセントラルパーク構想との間に関係してくるものというものは何が予定されていますでしょうか。

○事務局 セントラルパークが位置づけられている土地は、新幹線から南側、高南団地から北側になりますが、このあたりは用途地域の指定がされていない無指定地域になりますので、これから都市的土地利用を図っていくという意味では、用途地域の指定と地区計画の適用が必要になってくると思いますので、その検討や決定ということで、関係していただくことになると思います。

○議長 手続的には用途地域、地区計画、の区域指定が入ってくるだけなんですね。都市公園にはならないのでしょうか。

○事務局 用途地域と地区計画の決定は目指していきますが、都市計画法に基づく都市公園の決定はしない予定です。

○議長 他に質問はよろしいですか。それでは、質問も出尽くしたように思いますので、これで審議を終了させていただきます。

それでは「決」を採りたいと思います。第1号議案「中遠広域都市計画道路柳原神長線の変更について」本案のとおり、了とすることにご異議がなければ、挙手をお願いします。

<挙手による採決>

挙手は11人です。出席者11人中、11人であり、過半数でありますので、第1号議案「中遠広域都市計画道路柳原神長線の変更について」は、袋井市都市計画審議会条例第7条第3項に基づき、当審議会として、本案のとおり了とすることに決定し、市長にその旨を通知いたします。

以上で、本日、予定をいたしました議事は、すべて終了いたしました。皆さん、ご協力ありがとうございました。それでは、進行を事務局へお返しいたします。

6 その他

袋井市都市計画マスタープランの（素案）について（資料提供）

○事務局 内田会長におかれましては、議事の進行、大変ありがとうございました。最後に、次第6「その他」となりますが、令和7年度に改定予定の袋井市都市計画マスタープランの素案について資料提供をさせていただきます。

○事務局（都市マスタープランの素案について説明）

○事務局 ただいま都市計画マスタープランの素案について、事務局から御説明をさせていただきました。ここで、少しお時間ございますので、御意見御質問等ございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

○委員 地区ごとの計画で、駅北地区は生活を充実させる場ということで、中心拠点からは外れるという考え方でしょうか。

○事務局 駅周辺につきましては中心拠点として位置づけをさせていただいておりますが、まちなか再生という視点に基づきまして、都市機能の集積だけではなくて生活を充実させる場への転換を図っていくという形としております。拠点としては、中心拠点としての位置づけとなっております。

○■委員 いわゆる中心市街地活性化は、今後はあまりやってかない地区っていうことで考えてもよろしいですか。

○事務局 これからの中心市街地の活性化の考え方としまして、消費の場から生活を充実させる場へ転換というものが求められているということがありますので、そういったものへの転換を図っていくというような考え方にしております。

○■委員 はい。ありがとうございます。現状を見ればそうせざるを得ないというところかなと思いますので、今後、中心市街地活性化事業等を計画していただきたいとは思っていますので、よろしくをお願いします。

○■委員 二つほどですね、質問をさせていただきます。方針2のところに関して、袋井インターから湊川井線を通り、150号線経由で御前崎に至る道が国から重要物流道路として指定されています。将来的に森町袋井インター通り線が開通すれば、この重要物流道路の重要性がさらに増すと考えます。特に湊川井線については、道路が狭く、夜間は暗い区間が多く事故も発生しています。さらに、田原から諸井地区にかけて自転車が通行するため、特に技能実習生の方々の安全も心配です。このような理由から、湊川井線の安全性向上は急務であると考えています。また、住民からは歩道がなく、通行が危険だとの声もあります。さらに、道路の維持管理に関しては、路側帯に生えている生垣や植木が道路に迫ってきているとの意見も寄せられています。これらの背景を踏まえ、重要物流道路の整備に際しては、安全性や維持管理にもしっかりと目を向ける必要があると感じます。このような視点を織り込んでいただければ大変ありがたいと思っています。

もう1点です。事前に頂いた資料の方針4の景観の形成に関連して、やはりこの目に見えない、景観といいますか、環境といいますか、水質であったり、大気や臭気や騒音であったりと、住宅地域では、やはりこういった目に見えない環境ということも重要ですから、当然法令でその基準値というのは決まっているわけですが、こういった、環境に配慮したまちづくり、住環境整備というような視点も一つ入れといたらどうかと考えて御提案をさせていただきます。

○事務局 それではただいま御質問を頂いた件について回答したいと思います。まず、重要物流道路をはじめとする、道路の整備、また維持管理等についての御意見につきましては、方針2の「都市間や拠点間を機能的につなぐネットワークづくり」のところで、大都市圏へ人や物をつなぐ広域連携交通、また近隣の市町とつながるための道路や市内での各拠点間をつなぐような道路、そうしたものを機能的に整備し、袋井市が潤うように活用してもらうような計画がこの方針の中に含まれていると御理解をいただければと思います。

○事務局 また、先ほどもう一つの御質問で、景観についての御質問をいただきました。本日お示した景観の方針は、もともと方針4で整理をしておりましたが、全体の構成を見直す中で、方針3の中に入れさせていただいております。例えば、コンパクトで調和のとれた市街地の形成、その中に街並みや沿道、道路景観などの創出や農地と居住地の共生の中で、見通しのよい眺望景観を保全していきますというものを組み込んで表現をしております。いずれにしても景観については、住環境を構成する上で非常に大事な要素になりますので、引き続き、大事にしていきたいという方針を示させていただいておりますので、御理解をいただければと思います。以上回答とさせていただきます。

○■■■委員 方針3に盛り込まれているということで、承知しましたけども、目に見えないその環境っていうのもあるので、何かしら視点として、出てくるといいかなって思いました。またよろしくお願いたしたいと思います。

○■■■委員 三つほどお伺いします。現状、浅羽南地区は、3.11以降、一切土地は動いておらず、工場跡地等に進出してくる企業というのは、大概皆さんいろいろ嫌悪感を持つ企業さんが多いという実態があります。土地利用を進めていく場合、現在国の法令とか、あるいは県条例とか、それから市の条例というようなことで、中でも1000平米以上の開発をする場合は、土地利用指導要綱によってですね、市の許可を受けなければいけない条例がありますが、それ以外の問題として、現在の生活環境を壊すような状態が非常に起こっています。この都市計画書を見ますと、例えば土地利用の指導要綱の対象物をもう少し広げて、少し強化するというような工夫とか、あるいは地区計画や建築協定などがありますけども、本当の意味で、地域の生活環境を守っていくために、この都市計画の中でどのように考えているのか。都市計画が、ただ単なるうたい文句ではなくて、ちゃんと機能するような形となっているのか、考え方をひとつお伺いしたいと思います。

それから本編の防災の部分ですが、津波の浸水被害区域が出ておりますが、発災と同時に河川の堤防や防潮堤が全部フラットになって、なくなってしまうという想定図なのです。正直申し上げまして、企業さんとしては、このような図面を出されると、サプライチェーンの関係で、企業さんは、取引先から一切取引ができない危険な区域と認識されてしまうというような事例も出ています。ここの表記の仕方としては、やはり災害ですから、最悪を想定するのもあるかと思いますが、逆に言えば、河川の堤防や防潮堤が壊れてしまうことに対して、何十億もかけてやったものが無駄ではないかというような批判にもさらされる可能性もあり、弊害も大きいということです。ここにもちゃんと黄色い中に書いてはございますが、ここまで読む人はそんなにいないと思います。地域としては、もうこれだけの被害を受ける地域なのだと、この図面だけで思っ

しまう。実際例えば、防潮堤が機能した場合の図面もあるはずですが。今年の3月に新たな被害想定が国や県から出されました。そういったものを受けて、議会でも新たな防潮堤を完備したシミュレーションをつくるべきだということをお願いしております。危機管理課からは国や県の被害想定が出た段階で検討していくというような話はもらっています。ちゃんとそう言ったものを具備していかないとひとり歩きしちゃうんですね。だからそういうところが非常に怖いところがありますから、表記の仕方を工夫していただきたい。

それから、水害のところですが、何で水害はハザードマップが載っていないのですか。以前、極端なハザードマップで630ミリぐらい雨が降って太田川5か所で決壊する最悪想定したものがあつたと思いますが、なぜその想定が水害の中に入っていないのですか。例えばそういうふうなものやれば都市計画はどっか飛んでいってしまいます。だからそういう意味で載せなかったのか、載せるんならハザードマップとして適切なものをちゃんと市民に知らしめていくべきではないかと思っておりますけれども、事務局としてどのようにお考えかお聞かせいただきたいと思っております。

○事務局 初めに浸水想定とハザードマップですね。そちらの御意見について御回答させていただきます。浸水想定につきましては、防潮堤などが崩れた最悪の事態を想定したものであるということで認識しております。ただ防潮堤をつくることによって、津波被害については、ほぼ軽減されているという状態でございますので、その点も踏まえて、この記載については少し検討させていただきたいと思っております。あわせて、ハザードマップについても、いま1度、検討したいと考えております。

○事務局 あと地域編につきまして、土地の利用が動いていないというようなところと、住環境の保全という御意見だったかと思っております。土地利用につきましては、地域編の中で浅羽南部地域は、概要版の資料9ページのところでお示しさせていただいております。その中で国道150号線沿線の4車線化やうみテラスDORIといった記載につきまして加えさせていただいている中で、都市地域の活力を図っていくという部分、それから土地利用につきましては、良好な居住環境や農地の保全といった部分の中で、そのエリアの保全を図っていくというような土地利用というものを示すようにしておりますが、記載の中で伝わり切らない部分もあつたというふうに考えております。

また、今回新しく「次世代へ継承できるまちづくり」というような項目を、全体方針の中でも示しておりますが、地域別構想の中でも「次世代へ継承できるまちづくり」というものを書かせていただいている中で、田園における地域主体の保全の取組といったようなものの中で、

少し表現できていると考えておりましたが、御意見をいただき、そういった部分が伝わり切っていないというふうに捉えさせていただきます。

○事務局 少し補足をさせていただきます。袋井の南の海岸に近いところのエリアについては、土地利用についての課題があるということは認識をしております。そうしたことも踏まえながら、エリアについては、元々が、農地として使われてきた場所でありますので、そうした場所の特性、また農地としての景観などを保全や維持できるように、その方向性を何らかの形でお示しをしたいと思っております。一つの方法としては、地域の生活環境との調和が図れるような土地利用を行っていくということを明記しております。この辺も踏まえながらですね、今後の作業の中で、いま1度、検討したいと考えております。

○委員 災害の図面については、少し検討させていただくということでございますので、期待したいと思います。私が例に出したのは、浅羽南地区でございますけど、こういった問題はどこの地域でも起きる話なんです。ある日突然、市街地の中で、大きな音を出したりというような問題が必ず出てきます。先ほど出ておりました、次世代へ継承できるまちづくりのために、都市計画の中でどのようなことをやっていくのか、具体的なアクションとして、市としてはどのような形で、次世代へ継承できるまちづくりをやっていくのか。いわゆる方法をもう少し明確にしたほうが良いのではないかなということで、発言をさせていただきましたので御検討ください。

○事務局 頂いた課題というのは、我々につきましても同じように感じているところでございます。こうした課題に対してどのように対応していくか、今回の都市計画マスタープランの中では、方向性をお示しさせていただくということで、できる限り書き込んでいきたいと思っております。またそれに対して、具体的にどんなアクションをするかについても、別の形で整理をするという作業が必要になりますので、引き続き努めてまいりたいと考えております。

○事務局 ほかにいかがでしょうか。質疑については、恐縮ですがここで切らせていただいて、もし御質問等ございましたら、また事務局にお寄せいただければと思います。

7 閉会

○事務局 それでは以上をもちまして、本日の袋井市都市計画審議会を閉会させていただきます。

以上のとおり審議がなされ、都市計画審議会は閉会した。

会議録署名人